

「女性活躍推進 理解促進セミナー」

◆日 時	令和7年7月1日（火） 13:30～15:30
◆場 所	横手市生涯学習館 Ao-na（あおーな） スタジオ「NEMATTE かま蔵」
◆出席者	講師 下タ村 正樹 氏（三又建設株式会社 代表取締役社長） ワークショップ進行役 平元 美沙緒 氏（秋田ファシリテーション事務所） 横手市内企業の経営者・マネジメント層等 19名
◆目 的	誰もがウェルビーイングで働きやすい職場づくりを進める機運醸成

1 事例紹介

（1）三又建設株式会社の紹介

三又建設株式会社は「笑顔創造企業をめざして」を企業理念に掲げ、幅広い事業を展開している。また、代表取締役社長の下タ村氏は「明るく、楽しい会社にするにはどうしたらいいか」を常に追求しており、従業員27名と共に、良い意味で建設会社らしくない企業文化を築いている。

（2）女性社員が活躍するまで

当時、建設業は3Kから7K（きつい、危険、汚い、休日なし、給料低い、帰れない、苦情多い）と言われており、女性技術者が少なかった。しかし、女性用作業着のデザインなど、建設業界のイメージアップが進む中で、重機の女性オペレーターとの出会いや、子育て中の女性技術者の送付したFAXからうかがえた仕事の手際の良さに感動し、少子高齢化による人財不足という課題に対し、女性でも誰でも働きやすい環境づくりを目指すようになった。

（3）誰でも働きやすい環境づくり

女性が活躍し、社員全員が働きやすい環境を作るために、意欲があるのに時間的に働けない人も自分のペースで働ける「くじよじ出勤選択

制度」を導入した。また、各種ワクチン接種は出勤扱いとし、費用も会社が全額負担することとした。業務面では、情報共有と業務効率化のためグループウェアを導入し、社長を含む全社員のスケジュールが可視化され、有給休暇も気兼ねなく取得できるようになり、ムダ・ムラ・ムリの削減につながっている。さらに、忘新年会などの飲み会の全廃や、年に1回、会社全額負担の県外研修（平日、日帰りまたは1泊）を実施、毎月第3水曜日には「老舗パン屋さんの日」として社長のポケットマネーから食事を提供している。面白楽しく取り組める環境を作る中で、気を遣いすぎないことや資格を応援すること、言葉遣いに気をつけること、雑談の中からヒントを得ることなどを大切にしている。



事例紹介（下タ村 正樹 氏）

2 ワークショップ

※個人ワーク→グループワーク→発表

【ゴール】

- ①誰もが働きやすい職場づくりに対する「課題」を可視化する
- ②「課題」に対する「方策」を企業や業種の枠を超えて考える

【Aグループ】

- ・心の問題を抱えていそうな従業員に対し、雑談の機会や相談窓口を設置する。
- ・自由な発言が行き過ぎている職場環境に対し、会議の時間や発言のルールを定める。
- ・若手社員の始業時刻間際の出勤や部署間での制度利用の不公平感に対し、ゆとり出勤の活用を推奨する。
- ・育児・介護制度の周知徹底を図り、制度利用への理解を促すため、利用度合いを管理職の評価に反映させることを検討する。
- ・勤務表の作成における不公平感をなくすため、担当者を変更し、プロセスを見直す。



グループ発表（Aグループ）

【Bグループ】

- ・雇用形態による休暇制度に違いや有給休暇を取りづらい風土を改善するため、時間単位で

の休暇取得を可能にするなど、柔軟な制度運用に改める。



グループ発表（Bグループ）

【Cグループ】

- ・女性も快適に過ごせるよう、トイレの美化や、休憩室に横になれるスペースの設置を行う。
- ・人間関係に左右されない公平な勤務表を作成するため、AIによる自動作成ソフトを導入する。
- ・休暇申請のしづらさや意見が言えない風通しの悪さ、旧来のやり方を変えられないといった課題には、トップの意識改革が必要である。



グループ発表（Cグループ）

【Dグループ】

- ・コロナ禍以降のコミュニケーション不足を解消するため、年代や職種を超えた交流会やランチ会などを開催する。
- ・多能工化を進め、従業員が休みやすい体制を整えるため、作業手順の動画化やDXの活用を推進する。
- ・高い離職率を改善する対策として、副業の許可や福利厚生充実を図る。
- ・若手の定着を図るため、完全週休二日制などの待遇改善と、職場の魅力を伝えるSNS活用が重要である。
- ・製造ラインの業務において、従業員が柔軟に働けるよう就業時間を設定する。



グループ発表（Dグループ）

【Eグループ】

- ・ハラスメントやメンタルヘルスの問題に対し、社外専門家による相談窓口を設けるなど、第三者の視点から慎重に解決を図る。
- ・子育て・介護支援や福利厚生の改善のため、他社の事例研究、報奨金付きの社内提案制度、外部講演会への参加などを通じ、社外の視点を取り入れる。



グループ発表（Eグループ）

3 コメント

- ・今回のセミナーに限らず、会社を持ち帰って、話し合った内容を有効に活用していただきたい。地域全体がより働きやすい環境づくりに取り組むことで、若者が県外ではなく、地元横手の企業に積極的に就職してくれるようになることを願っている。良い意味で互いに競争できるような企業が、たくさん増えることを期待している。（下村氏）
- ・「誰もが働きやすい職場づくり」というゴールに向けて、課題を可視化し、それに対する具体的な方策をみんなで考えることができた。業種を超えていろいろな方の話の中からヒントが得られるなど、皆様のおかげでより充実した内容になったと感じている。（平元氏）



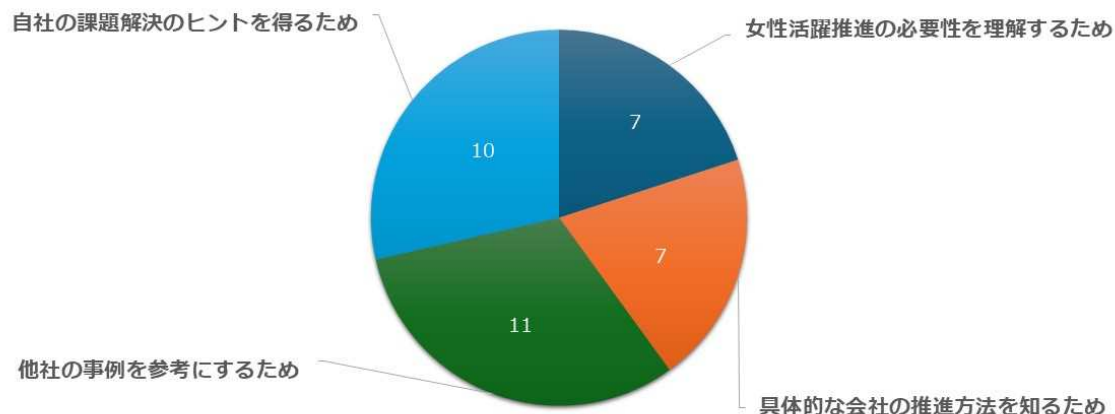
ファシリテーター（平元 美沙緒 氏）

4 アンケート結果より

(1) セミナー全体の学びと評価について

I. セミナー全体の学びと評価

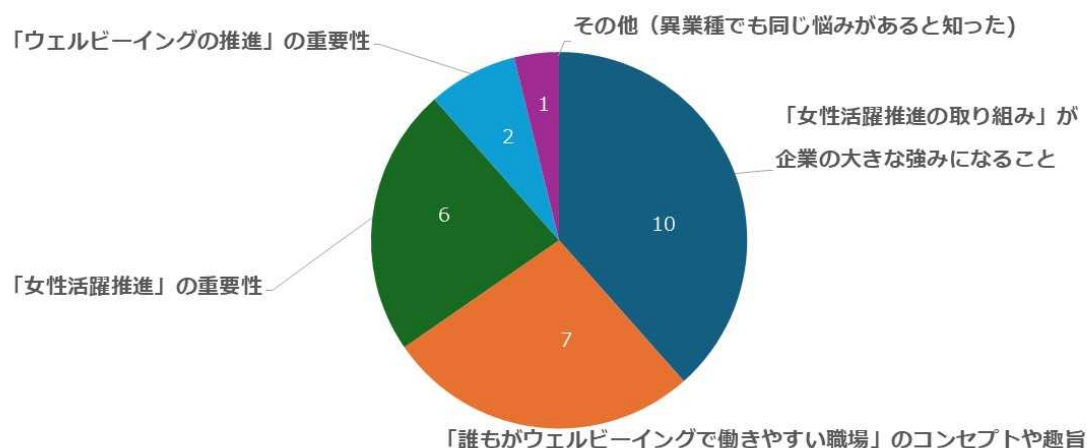
Q1. 今回のセミナーにご参加された主な目的は何でしたか？（複数選択可）



- ・参加者の主な目的は、他社の事例を参考にする 것과、自社の課題解決のヒントを得ることで、具体的な実践方法や他社の成功例への関心が考えられる。

I. セミナー全体の学びと評価

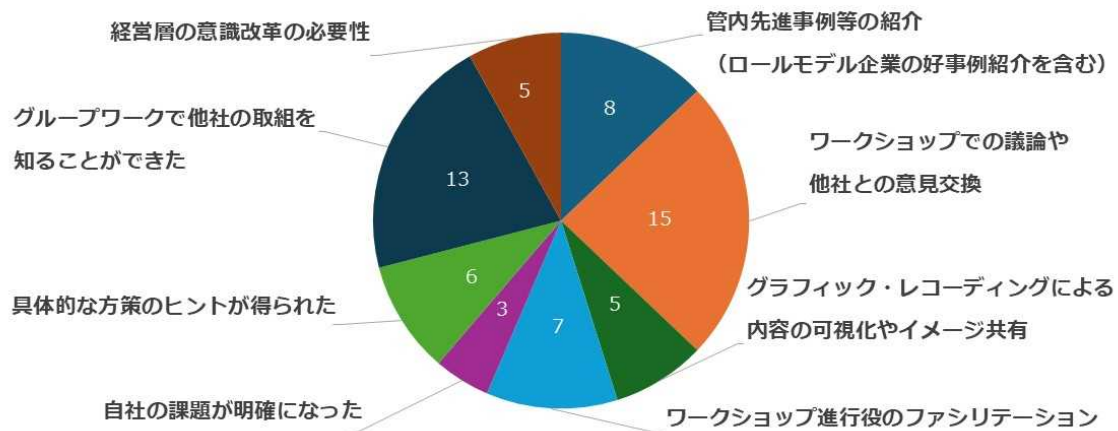
Q2. セミナーを通じて、特に理解が深まった点や学びがあったと感じた項目はどれですか？（複数選択可）



- ・セミナーを通じて、「女性活躍推進の取り組み」が企業の大きな強みになること、そして「誰もがウェルビーイングで働きやすい職場」のコンセプトや趣旨に対する理解が深まったと回答されている。

I. セミナー全体の学びと評価

Q3. 今回のセミナーで特に参考になった点や、印象に残った内容はどれですか？（複数選択可）

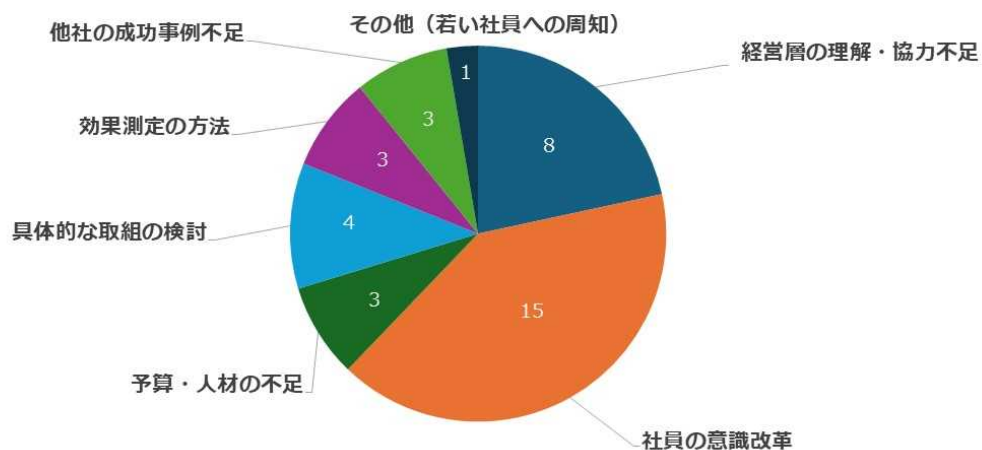


- ・ワークショップでの議論や他社との意見交換、およびグループワークで他社の取組を知ることができた点が特に印象に残っており、参加者間の交流と情報共有が最も有益であったと考えられる。また、管内先進事例等の紹介（ロールモデル企業の好事例紹介を含む）や、ワークショップ進行役のファシリテーションも参考になったと挙げられている。

（2）貴社での今後の取組について

II. 貴社での今後の取り組みと課題

Q4. 貴社で女性活躍推進に取り組むにあたって、現在課題に感じていることは何ですか？（複数選択可）



- ・女性活躍推進に取り組むにあたっての最大の課題は、社員の意識改革で、組織内での意識の浸透が重要であると考えられる。次いで、経営層の理解・協力不足が大きな課題として認識されている。

II. 貴社での今後の取り組みと課題

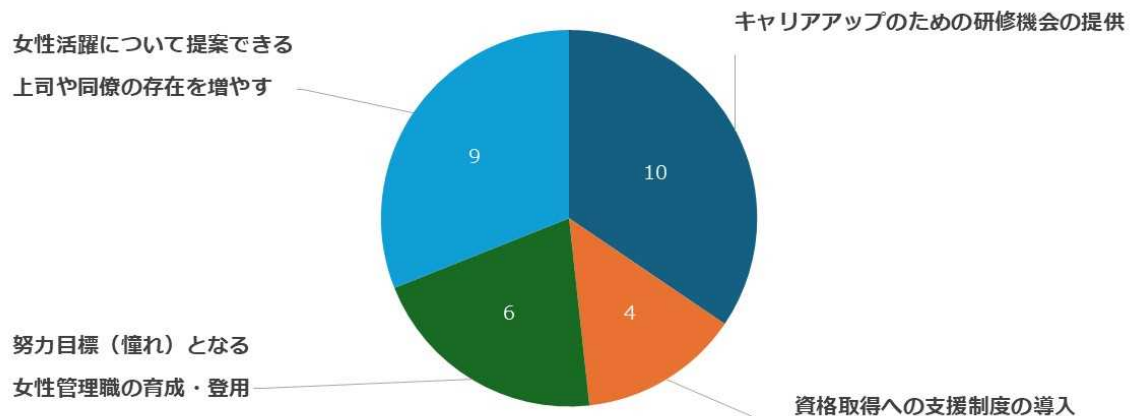
Q5. 本セミナーを受けて、貴社で特に力を入れていきたいと感じた（または新たに取り組みたい）点はどれですか？（複数選択可）



- ・給与や昇進面での男女の公平性の確保、性別に関わらない公平な評価・昇進制度の確立が最も重視されている。また、相談しやすい職場環境・メンター制度の整備（相談できる女性職員の存在を含む）も重要な取り組みとして挙げられている。

II. 貴社での今後の取り組みと課題

Q6. 女性リーダーの育成に関して、今回のセミナーで得られた知見や、今後貴社で特に力を入れていきたい点や取り組みたいことはどれですか？（複数選択可）



- ・女性リーダーの育成に関し、キャリアアップのための研修機会の提供が最も力を入れたい点で、女性活躍について提案できる上司や同僚の存在を増やすことも重視されており、組織内のサポート体制の強化が求められている。

(3) 今後のセミナーへのご意見・ご要望について

III. 今後のセミナーへのご意見・ご要望

Q7. 今後、女性活躍推進やウェルビーイング推進に関するセミナーが開催されるとしたら、どのようなテーマに関心がありますか？（複数選択可）



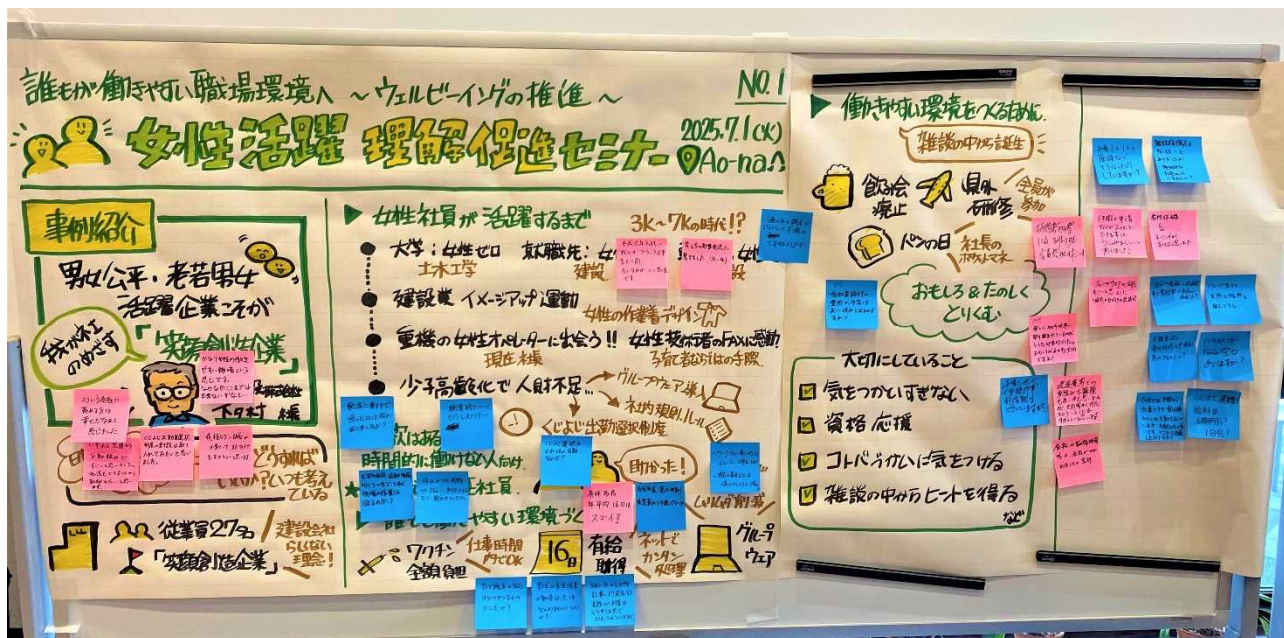
- ・今後開催されるセミナーでは、多様な働き方の推進と管理職の意識改革に最も関心があり、現在の課題（社員・経営層の意識改革）と関連している。また、ハラスメント対策なども関心が高いテーマである。
- ・参加者から「大変参考になった」「有意義な時間だった」「刺激を受けた」といった肯定的な意見が寄せられている。今後の要望としては、「多様な働き方に応じた人事考課の制度」といったより具体的な実践方法や、「いろいろな年齢層が参加でき、意見交換できる機会を増やせば課題が見え、糸口がつかめる」といった、より活発な交流の機会を求める声がある。「何度もセミナーを開催していただきたい」という要望もあり、継続的な学びの機会が求められている。



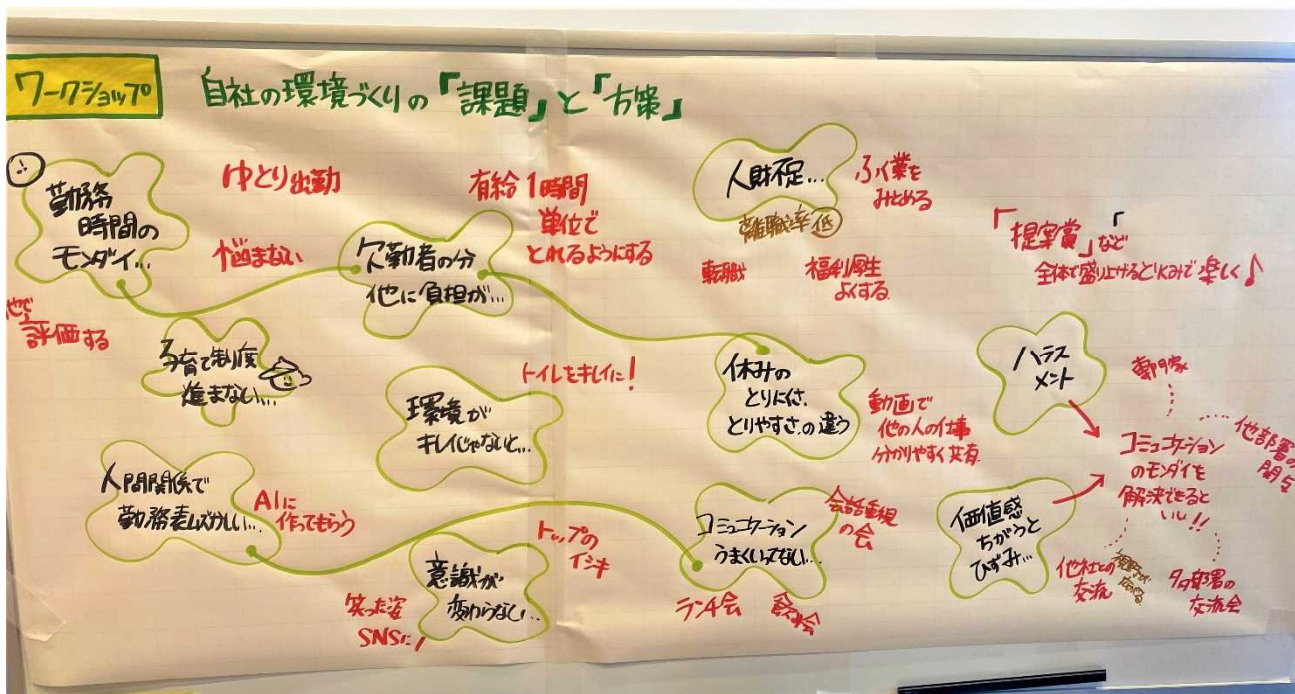
集合写真

○平元氏によるグラフィックレコーディング

セミナーの内容は、イメージの共有やコミュニケーションの活性化を図るため、グラフィック・レコーディング（イラストを用いて、議論の要点を可視化する手法）を活用した。



事例紹介



ワークショップ